

県立大学設置にかかるニーズ調査について

1 学びの需要調査

6月から7月にかけて、大学等への進学等を意識し始める県内の高校生2年生およびその保護者(各約1万6千人)を対象に、学びの希望等について調査を行いました。生徒からは8割を超える回答があり、主な調査結果は、次のとおりです。

(1) 回答率

- 高校生 86.4% (13,770人/15,939人)
- 保護者 69.8% (11,118人/15,939人)

(2) 主な調査結果

(以下は、大学・短期大学への進学希望者(生徒:8,671人、保護者7,678人)のみの回答)

1) 第1志望の大学・短期大学の区分

	生徒			保護者		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
国公立	3,829	44.2	1	3,756	48.9	1
私立	2,523	29.1	2	830	10.8	3
国公立・私立どちらも考えている	2,215	25.5	3	2,981	38.8	2

生徒、保護者とも「国公立」を選択した割合が最も高いことから、「国公立」のニーズが高いと考えられます。

2) 進学を希望する大学・短期大学の所在地

	生徒			保護者		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
県内・県外どちらでもよい	3,391	39.1	1	3,936	51.3	1
県外(できれば県外)	3,173	36.6	2	685	8.9	3
県内(できれば県内)	1,659	19.1	3	2,849	37.1	2

生徒、保護者とも「県内・県外どちらでもよい」が最も多いものの、次いで生徒では「県外(できれば県外)」、保護者では「県内(できれば県内)」が選択されています。「県内(できれば県内)」を希望する回答の割合は、保護者が37.1%であるのに対して、生徒は19.1%と保護者の約2分の1にとどまっています。一方で、実際の県内大学への進学実績は2割であり、生徒の意向が反映されていると考えられます。

3) 進学先を決める際に重視すること

	生徒			保護者		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
専攻したい学問分野がある	4,292	49.5	1	4,619	60.2	1
国公立の大学・短期大学である	2,901	33.5	2	3,213	41.8	2
資格・免許が取れる	2,890	33.3	3	2,921	38.0	3
就職のための支援が充実している	2,055	23.7	4	2,626	34.2	4
施設・設備がよい	2,025	23.4	5	478	6.2	12
自宅から通える	1,438	16.6	9	2,388	31.1	5

※各上位5つを表示。複数回答あり。

生徒、保護者ともに上位4位までの順番は同じであり、「専攻したい学問分野がある」が最も高くなっていることから、進学を決める際には、専攻したい学部があることが重要な決め手になると考えられます。

4) 希望度が高い専門分野（生徒のみの設問）

	生徒		
	回答数	割合	順位
工学	1,548	17.9	1
商学・経済学・経営学	1,437	16.6	2
文学・史学・哲学	1,159	13.4	3
看護学・保健学	1,136	13.1	4
教育（幼児教育学・保育学を除く）	1,135	13.1	4

※上位5つを表示。

「工学」が最も高く、次いで「商学・経済学・経営学」となっており、他のデータ等とあわせて検討する必要がありますが、この2分野は設置学部の有力な候補になると考えられます。

5) 県内に公立大学が新設された場合の進学希望

	生徒			保護者		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
進学先の候補として考えない	4,278	49.3	1	1,266	16.5	2
進学先の候補として考える	4,268	49.2	2	6,299	82.0	1

保護者は「進学先の候補として考える」が8割を超えています。生徒の回答は「進学先の候補として考えない」、「進学先の候補として考える」が拮抗しているものの、実数を見ると4千人を超えており、県立大学設置のニーズは一定あると考えられます。

6) 県内に公立大学が新設された場合、「進学先の候補として考える」理由

	生徒			保護者		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
自宅から通える	2,618	61.3	1	3,563	56.6	2
学費が安いイメージがある	2,237	52.4	2	4,263	67.7	1
公立大学なので安心感がある	1,926	45.1	3	2,849	45.2	3

※上位3つを表示。複数回答あり。

生徒、保護者とも「自宅から通える」、「学費が安いイメージがある」が上位2位を占めており、自宅通学、低廉な学費は、県内に公立大学が新設された場合、進学先の候補とされる主な選択理由になると考えられます。

7) 将来、就職を考えている地域

	生徒			保護者		
	回答数	割合	順位	回答数	割合	順位
県内・県外どちらでもよい	4,064	46.9	1	4,300	50.6	1
県外（できれば県外）	2,448	28.2	2	219	2.9	3
県内（できれば県内）	1,702	19.6	3	3,016	39.3	2

※大学進学等の希望者分を集計。

生徒、保護者とも「県内・県外どちらでもよい」が最も多くなっています。「県外（できれば県外）」と回答した割合は、「2）進学を希望する大学・短期大学の所在地」で「県外（できれば県外）」と回答した割合より少なくなっています。

2 県民の方の意見の聴取

6月に、e－モニター制度を活用して県立大学の設置の必要性や県立大学に求めること等について調査しましたところ、その結果は次のとおりでした。

(1) 回答率 70.7% (836人/1,182人)

(2) 調査結果

1) 県立大学の設置の必要性

	回答数	割合	順位
必要と思う	462	55.3	1
必要でないと思う	234	28.0	2
分からない	140	16.7	3

「必要と思う」と回答した方が半数を超えており、必要と考える方が一定数いると考えられます。

2-1) 県立大学の設置を「必要」と思う理由

	回答数	割合	順位
県内の進学先が増えるのはよい	316	68.4	1
地域を担う人材を育成でき、地域が活性化する	182	39.4	2
県内に就職する人が増えると思う	133	28.8	3
県内の教育・文化水準が上がる	124	26.8	4
経済的負担が少なくて済む	120	26.0	5

※上位5つを表示。複数回答あり。

「県内の進学先が増えるのはよい」が最も高く、次いで「地域を担う人材を育成でき、地域が活性化する」、「県内に就職する人が増えると思う」が高くなっており、学びの選択肢の拡大や地域活性化の面で意義を感じている方が多いと考えられます。

2-2) 県立大学の設置を「必要でない」と思う理由

	回答数	割合	順位
18歳人口が減少する見込みの中では必要ない	128	54.7	1
県内からの進学者が増加するとは思えない	90	38.5	2
県内に就職する人が増えるとは限らない	63	26.9	3
県内の教育・文化水準が上がるとは思えない	60	25.6	4
建設・運用費用が県財政に与える影響が心配	56	23.9	5

※上位5つを表示。複数回答あり。

「将来18歳人口が減少する見込みの中では必要ない」が最も高く、1)で「必要でないと思う」と回答した方の半数がその理由に挙げており、人口減少下で必要性を感じていない方が多いと考えられます。

3 企業の意見の聴取

事業者を対象とした県のアンケート調査を活用して、企業等が求める確保したい人材の学んだ専門分野についてお聞きしましたところ、その結果は次のとおりでした。

(1) 回答率 31.2% (1,562社 (うち県内企業1,387社、県外企業175社) / 5,000社)

(2) 調査結果

1) 確保したい人材の学んだ専門分野

	県内企業	
	割合	順位
工学	34.1	1
商学・経済学・経営学	32.6	2
情報学	17.6	3
理学	9.9	4
農学・獣医畜産学・水産学	9.1	5
美術・芸術・デザイン学	9.1	5

※上位5つを表示。複数回答あり。

「工学」が最も高く、次いで「商学・経済学・経営学」となっており、他のデータ等とあわせて検討する必要がありますが、この2分野は設置学部の有力な候補になると考えられます。